

シナリオ講座 応募要項

参加無料 (事前に申込みが必要です)

映画やテレビドラマの脚本、そして、小説や漫画などあらゆる「ストーリー」に興味をお持ちの方、そのテクニックを学んでみませんか

2017年10月7日(土)、8日(日)

あらゆる創作は、5%の感性と95%の技術・理論で成されます。

しかし、テクニックは魔法ではありません。知れば書ける、ということではなく、手順を踏んだ繰り返しの実践によって、それはようやく自身のものになるのです。この講座では、僕が大学でゼロからの学生たちを指導し、長編映画の脚本や小説のストーリーを作れるようにする授業内容を、凝縮してお届けします。皆さん自身が実践して、疑問点・問題点を見出し、解決していきながら、ストーリー創作と脚本執筆のイロハを身に付けていきましょう。(講師:赤城 聡)

講師 / 赤城 聡

フラミンゴ代表取締役 プロデューサー/シナリオ・アナリスト
デジタルハリウッド大学デジタルコミュニケーション学部デジタルコンテンツ学科教授

スケジュール

第1日:10月7日(土) 15:00~18:00

第2日:10月8日(日) 13:00~16:00

ストーリー理論・脚本理論解説

心を捉えるストーリー、優れた脚本とは?

ストーリー・脚本作成実践

皆さんのアイデアは、どう変化していくでしょうか?

対象

1. 高校生相当の年齢以上
2. 映画、テレビドラマなど映像作品のシナリオを書きたい方・興味のある方、ジャンルを問わず、ストーリーを作りたい・語りたいという方
3. 2日間ともに参加できる方。
 - ・初心者でも、執筆歴がある方でも、どちらでも参加出来ます。
 - ・講座当日、それぞれ書いてみたいと思うアイデア(複数OK)を、書面でご用意下さい。書式は自由です。
 - ・Microsoft Wordなどの文書ソフトが入ったPCやタブレットなどを持参していただくと学びやすいです。

定員

16名 ※応募多数の場合は選考

応募方法

所定の申込書に必要事項を記入し、映像文化ライブラリーまで郵送、来館、FAXのいずれかでお申込みください。申込書は<http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/> からダウンロード、または映像文化ライブラリー窓口にて。

選考方法

書類選考

※選考結果は郵送、FAX、または電子メールにてお知らせします。※選考結果についてのお問い合わせにはお答えできません。

応募期限

2017年9月22日(金) 必着

広島市映像文化ライブラリー

〒730-0011 広島市中区基町3-1 TEL082-223-3525 FAX082-228-0312 <http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/>

■開館時間:火~土曜日 午前10時~午後8時(日曜日、祝日、8月6日は午後5時まで) ■休館日:月曜日(8月6日と祝日は開館)、祝日の振替日、12月29日~1月4日

講師プロフィール



赤城 聡

フラミンゴ代表取締役 プロデューサー/シナリオ・アナリスト
デジタルハリウッド大学デジタルコミュニケーション学部デジタルコンテンツ学科 教授

立教大学卒業後、レコード会社で音楽制作/宣伝/販売促進などの業務に従事。その後、洋画買付/邦画製作などに携わり、2000年、(有)フラミンゴを設立し映画プロデューサーとして独立。2004年4月～2006年1月にはびあフィルムフェスティバルプロデューサーも務めた。2005年4月、デジタルハリウッド大学デジタルコミュニケーション学部デジタルコンテンツ学科教授に就任。担当科目は、ストーリー理論、演出技法、脚本技法など映画理論、映画史など多岐に渡る。また、シナリオ・アナリストとして、映画、テレビドラマなどの脚本分析およびアドバイスをを行っている。

主なプロデュース作品

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 「空の穴」(熊切和嘉監督) | 「凶悪」(白石和彌監督) |
| 「アフタースクール」(内田けんじ監督) | 「先輩と彼女」(池田千尋監督) |
| 「食堂かたつむり」(富永まい監督) | 「クリーピー 偽りの隣人」(黒沢清監督) |
| 「鍵泥棒のメソッド」(内田けんじ監督) | 「日本で一番悪い奴ら」(白石和彌監督) |
| 「王様とボク」(前田哲監督) | |

受講申込される方へ

※注意事項と創作の心得を列記いたします。ご理解の上、お申込み下さい。

◎観客・読者視点から、創造者視点へ発想を転換すること。

観客・読者として楽しむのと、作家として楽しませるのでは、発想を変えなくてはなりません。楽しい、面白い、と感じることはあくまでも表層であり、そう感じさせる技術は、ほとんど観客・読者側からは発見できないからです。

◎作品を、個人の視点を捨て、理解すること。

映画を観るという行為は、自分がいかに世界で孤独なのかを確かめることだ、とおっしゃった偉大な映画作家がいます。自分の価値観、世界観は自分だけのものであり、他人の世界観を観客視点の自分の物差しで「駄目」「良くない」「つまらない」と判断することを止めることから、創作は始まります。具体的には、評価が高い作家や作品を自分が「嫌い」と思った際に、その判断を疑ってみる事です。それが客観的、つまり、論理と技術で説明出来ないのであれば、確実にそれは他人にはわからない「独りよがり」だと省みる事が重要です。

◎創作する際には、主人公視点で物語を追い続けられないこと。

主人公視点ではばかりその物語の進み方を考えると、時間と空間が狂ってもその歪みに気づかなくなります。観客・読者が主人公に感情移入出来るのは、その周辺環境に疑問や矛盾を持たないからです。そのために、物語から一旦心を離し、客観的に神の視点で俯瞰し、周辺環境を整え、「世界」を構築しなければなりません。

◎形容詞や修飾語を出来る限り使用せずに、動作と言葉で説明すること。

つまり画と音でキャラクター、状況を説明するように、常に考えること。

例えば、キャラクターの特徴を、「優しい」ではなく、「路上で倒れている人に声を掛けて病院までおぶっていく」というように、表現して下さい。

◎主人公の行く末を追いかけたいのか、寄り添って育てたいのか、を考えること。

主人公を創造する際には、「興味がある」という視点から始まるので、いずれにしてもその行く末が気になる人物ではあるでしょう。しかし、ある程度煮詰める、具体的には、その主人公の目的と抑圧を決めた時に、単に追いかけたい、見てみたいのか、寄り添って育成していきたいと思えるのか、わかってくると思います。「追いかけたい、見てみたい」＝観客・読者としての興味、「育成したい」＝作家としての興味です。

◎取材、調査、研究を厭わないこと。

自分の経験、知識、感性だけで、作品制作をしている作家は、いません。興味を持った題材を調べて発見することから、プロの創作は始まります。取材、様々な資料の調査などを通して、設定を整えると同時に、それまで見えてなかった事実を発見し、ピックアップしてパッチワークする。とても面倒な作業ですが、これがストーリー創作の醍醐味です。

これを避けたい、何か効率的で便利な方法を教えてほしい、という方は、作家としての才能ではなく資質が欠けていますので、諦めるべきです。

★受講される方へ(講師:赤城 聡より)

「アフタースクール」「鍵泥棒のメソッド」「凶悪」「先輩と彼女」「クリーピー 偽りの隣人」「日本で一番悪い奴ら」、以上6作品は、鑑賞しておいて下さい。また、他作品も含めて、僕がプロデュースした作品に関しては、講座内で皆さんのご質問にお答えします。

広島市映像文化ライブラリー シナリオ講座申込書

ふりがな		性別	年齢
氏名		男・女	歳
住所	〒		
電話番号	固定電話		
	携帯電話		
	FAX		
携帯メールアドレス			
PCメールアドレス			
選考結果の受取方法（いずれかに○をしてください） <input type="checkbox"/> 郵送 <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> 携帯メール <input type="checkbox"/> PCメール			
過去に開催した映像文化ライブラリー主催「シナリオ講座」への参加の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
創作歴 ※映像以外のことでもかまいません。			
応募動機 ※この講座で学びたいことなどをお書きください。			

※この申込書に記載していただく個人情報は、この事業のみに使用し第三者に提供することはありません。